

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ココトモワークスジュニア 犬山今井校		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 8日		2025年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44人	(回答者数) 33人
○従業者評価実施期間	2026年 3月 23日		2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数) 13人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの気持ちや発達段階、当日の体調や環境の変化にも丁寧に目を向けながら関わることで、「その子らしさ」を尊重した無理のない支援を継続的に提供している	児童一人ひとりの小さな変化や成長、情緒面の揺れなどを見逃さないよう日々観察を行い、毎日その内容を職員間で細やかに共有することで、支援方針の統一と質の維持・向上に努めている	職員の専門性だけでなく人間性や関わりの方の質の向上も重視し、定期的な研修や事例検討、振り返りの機会を充実させることで、より質の高い支援の提供を目指していく
2	日々の関わりや体験活動の中で、児童自身が自分の得意なことや好きなことに気づき、「できた」という成功体験を積み重ねることで、自己肯定感の向上と意欲の育成につなげている	活動への参加を強制するのではなく、「やってみたい」「楽しそう」と感じられる関わりや環境設定を意識し、児童の主体性や意欲を引き出す支援を大切にしている	保護者との日々の情報共有を丁寧に行うとともに、学校や相談支援事業所など関係機関との連携をさらに強化し、児童を多面的かつ継続的に支える支援体制の構築を進めていく
3	自然体験や季節に応じた活動、集団遊びなどを積極的に取り入れ、日常生活では得がたい多様な経験を通して、社会性や適応力、挑戦する力を育む環境を整えている	成功体験を無理なく積み重ねられるよう、一人ひとりの発達段階や特性に応じたスモールステップでの支援を行い、適切なタイミングでの肯定的な声かけやフィードバックを意識している	体験活動の内容やバリエーションをさらに拡充し、児童が「楽しい」「またやりたい」と感じられる機会を増やすことで、挑戦する意欲や社会参加への前向きな姿勢を育てていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	配置基準は満たしているものの、児童一人ひとりに対してより丁寧に個別性の高い関わりや、体験活動のさらなる充実を図る上では、指導員の人数が十分とは言えず、支援の幅に一定の制限が生じている状況がある	支援の質を最優先に考え、少人数での丁寧な関わりや個別対応を重視していることに加え、福祉分野における人材確保の難しさも影響し、結果として職員体制に十分な余裕を持たせることが難しい状況となっている	人材確保に向けた採用活動の強化に加え、既存職員のスキル向上や役割分担の見直し、業務効率化を進めることで、支援の質を維持しながら余裕のある安定した職員体制の構築を目指していく
2	現在の利用状況が高稼働で推移しているため、新規利用希望者に対して柔軟な受け入れが難しく、地域のニーズに対して十分に答えきれていない側面がある	既存利用児童への支援の質を維持・向上させることを優先していることや、体験活動を中心としたプログラム構成により一日の受け入れ可能人数に制約があるため、新規利用希望者の受け入れ調整が困難になっている	利用枠の見直しや一日の活動構成の工夫、受け入れ体制の再整理を行うことで、既存利用児童への支援の質を確保しつつ、新規利用希望者の受け入れ可能性を段階的に広げていく
3	学校や相談支援事業所、他の福祉サービス事業所等との情報共有や連携の機会が限定的となっており、支援の方向性の統一や一貫性の確保という点で課題が見られる	日々の直接支援業務や送迎業務に多くの時間を要する中で、関係機関との定期的かつ計画的な情報共有の機会を十分に確保することが難しく、結果として連携の機会が限定的になっている	学校や相談支援事業所、関係機関との連携機会を意図的かつ計画的に設定し、情報共有の仕組みづくりや連携方法の明確化を図ることで、より一貫性があり質の高い支援体制の構築を進めていく